

2016年 **2月6日(土)**  
10:00～16:30

＜午前の部＞

基調講演—小畑隆資さん

(岡山大学名誉教授 本集会実行委員長)

10:20～11:30

各団体からの訴え

＜午後の部＞

第1～6分科会(裏面に掲載)

13:10～16:30

岡山市勤労者福祉センター

5階体育集會室、他

岡山市北区春日町5-6

●参加費

一般 1,000円 障害者・学生 500円

●主催

岡山県地域人権問題研究会実行委員会  
岡山県地域人権運動連絡協議会  
一般財団法人岡山県民主教育研究会  
・事務局 〒700-0054 岡山市北区下伊福西町1-53  
電話 086-253-2611 FAX 086-253-6722

●会場案内図



人権と連帯が花開く岡山に  
岡山県地域人権問題研究会2016

憲法が輝く  
地域づくり



—「岡山県地域人権問題研究会2016」へのおさそい—

俳人・金子兜太氏が力強く暴書した「アベ政治を許さない」のポスターは、戦争法案に反対する全国の集会やデモ行進で掲げられて大活躍しました。戦争法は2015年9月19日に多くの国民の声を無視して成立しましたが、「アベ政治を許さない」は立憲主義・民主主義・平和主義を貫く「新しい政治」を求める多くの人々の共通の合言葉となっています。

今回の戦争法案に反対する運動には、大学生や高校生などの若者や子供の将来に関心を寄せるママたちの多くが、「アベ政治」に対する「不安」と「危機」の思いにかられて、一人ひとりがそれぞれの判断で集会やデモに参加してきました。翁長雄志沖縄県知事は、辺野古の埋め立て工事を強行する「アベ政治」に「問答無用という姿勢」を見てとりそれを「政治の墮落」として断罪しました(2015年4月5日菅官房長官との公談)。その「墮落」した「アベ政治」の姿勢は、もっと審議を！という国民多数の声を無視して戦争法を強行成立させたことにも見て取ることができます。こうした「墮落」した「アベ政治」に対して、「民主主義って何だ?！」とするどく切り込み、新しい感覚と新しい言葉で「政治」を語る若者たちやママたちの登場は、主催者を主人公とするこれからの「新しい政治」を予感させるものです。

「空気を読んでいては、空気は変わらない。武器をもち、人を殺すことが普通の国だと言うなら、私はその普通を変えたい。」と、シールズ関西の大学2年生大澤葉実さんは、学者の会主催・SEALDs共催のシンポジウム(2015年10月25日)で決意を語っています。また、ママの会発起人の西郷南海子さんは、ママの会の合言葉「誰のこどもも殺させない!」について、「私たちは、こんなにかんばって育てている子どもが誰かの利益のために消費させられる、『戦争する国』を拒否します。中国とたたかう?でも、たたかう若者本人にとっては、なんの利害関係もない争いでしょう。それは、中国の若者にとっても同じでしょう。」と、ママたちの思いを普通の分かりやすいしかも説得力のある言葉で語っています(「全国革新懇ニュース」、2015年10月号)。

いまこうした「新しい政治」を予感から現実の大きな流れにしていくことが求められています。岡山県地域人権問題研究会も、2012年2月に第1回を開催して以来今回で5回目を迎えます(現在、県下31団体参加)。本研究集会も、その当初から、「地域における『憲法を暮らしに活かす』運動を検証し、『憲法を政治に活かす』道筋をつけることを『基本課題』として、『憲法を政治に活かす新しい政治』の在り方を探る」ことを掲げて取り組んできています。

「アベ政治を許さない」で、立憲主義・民主主義・平和主義を貫く「新しい政治」を樹立する道を、みなさんと共に考えたいと思います。「岡山県地域人権問題研究会2016」に、多数のみなさんの参加をよびかけます。

岡山県地域人権問題研究会2016 参加申込書

(郵便、FAXにて1月20日頃までにお寄せ下さい)  
FAX 086-253-6722

フリガナ		希望分科会の	第1	第2
氏名		番号を〇で	第3	第4
住所		囲んで下さい	第5	第6
性別	男・女	お茶付 1,000円	(事前申込み必要)	
希望分科会		お弁当	おやつ代 1人300円	
		( )個	子どもの人数	

## ●第1分科会 地域人権の確立のために

### 地域人権憲章について

中島 純男さん (岡山県地域人権運動連絡協議会議長)

#### 報告 1 貧困と人権、地域生活の課題

報告者 宇野 将一さん (生存権裁判原告)

#### 報告 2 安永健太さんはなぜ死ななければならなかったのか!? ~佐賀知的障害者死亡事件を考える~

報告者 中元 大さん (社会福祉法人「精い」スタッフ)

#### 報告 3 高齢者の在宅生活の実態と課題

報告者 横山 範子さん (小規模多機能ホーム「みんなの家かるかも」スタッフ)

今日の情勢を反映して、「地域が主体」という提感が行政、住民、様々な団体から声を大きくして呼び掛けられています。現実、地域住民はどういう暮らし・生活をしているのでしょうか。自分の意思により自由に行動できているでしょうか、貧困や格差による困難がどのような影響を与えているのでしょうか。困難を跳ね返すために、また住んでいてよかったと言える地域にするために住民自身はどのような取り組みを進めているのでしょうか。この分科会では、今日の現状が提起する地域と人権にかかわる様々な現状を出し合い、その解決を阻んでいる原因や背景もとらえ、憲法が保障する基本的人権の理解を深めていきたいと思えます。

## ●第3分科会 主権者教育を考える

### 若者が選挙に行ける18歳が待ち遠しくなるために

田中 博さん (おかやま教育文化センター事務局長)

#### 報告 1 こんな学校だったらいいのに

報告者 長谷川陽子さん (フリースペースあかね)

#### 報告 2 当事者(若者)が考える「18歳選挙権」

報告者 岩佐 仁志さん (おかやま教育文化センター)

#### 報告 3 今なぜ18歳選挙権なのか

報告者 石井 信行さん (子どもと教育・くらしを守る岡山県教職員の会)

「若者が選挙に行ける18歳が待ち遠しくなる」ために私たち大人は何をすればいいのか。2014年末の衆院選挙の投票率は52.6%、全国の小選挙区では20歳~24歳が29.72%と年代別で最低でした。しかし、春から夏にかけての戦争法阻止の運動で高校生がデモに参加するなど若者のあいだに平和・民主主義・憲法への関心が高まっています。若者から「考えること」を奪ってきたものは何か、若者・子どもが大人と同等に尊重される社会のあり方を話し合います。

## ●第5分科会 住み続けたい 地域やまちづくり

#### 報告 1 倉敷駅高架問題とまちづくり

報告者 田辺 昭夫さん (倉敷市議会議員)

#### 報告 2 商店街の活性化とまちづくり

報告者 長谷川 誠さん (岡山市美助商店街連盟理事長)

#### 報告 3 岡山県内各自治体で進む市民自治を基盤としたまちづくりの理論と実践

報告者 小川 孝雄さん (コミュニケーションライター・実作大学非常勤講師)

貧困と格差が社会問題化する中、地域間格差も大きな問題となつていきます。3・11東日本大震災・福島原発事故以降、地域社会の大切さが改めて見直される時代になりました。この間、中山間地域の「限界集落」問題や都市部のローナツ化現象、シャッター通り等、地域の疲弊もクローズアップされる中で、自分たちの住んでいる地域を再生・活性化しようという取り組みがはじまっています。何が課題で、どうすれば解決できるのか、この分科会ではこうした取り組みを報告し、ともに学び合いたいと思います。

## ●第2分科会 介護を考える

### 介護保険制度と岡山県内の現状

森本 忠春さん (岡山県社会保険推進協議会事務局長)

#### 報告 1 施設介護の現場から

報告者 松下 朋子さん (老健あかね介護福祉士)

#### 報告 2 在宅介護を支えて

報告者 竹原真由美さん (コープケアプラン福祉介護支援専門員)

#### 報告 3 親の介護を経験して

報告者 花田 千春さん

所得160万円以上の人は自己負担2割に、特別養護老人ホームへの入所は要介護3からに、高齢者人口が今後増える中で介護保険制度が改善されています。

在宅での生活が困難になっている要介護高齢者の居場所がなくなる事が懸念されます。高齢者は在宅での生活を希望する人が多くいます。介護する側の苦勞も大きなものがあります。

この分科会では介護を施設で支えている人、在宅介護を支援している人、在宅介護を行った人から報告してもらい、参加者で共有し介護を考えていきます。

## ●第4分科会 労働者に入権

### 中小企業家同友会の労使見解に 労働運動の展望のヒントがある

#### 報告 1 対立する労使関係から共同の未来を

報告者 伊原 潔さん (岡山県労働組合会議事務局長)

#### 報告 2 共に学び共に育つ中小企業

報告者 虫明恵美子さん (Kトラックスミス)

働きがいや生きがいを持つて仕事をするにはどうしたらいいのか？ 労働組合が本来の機能を發揮して、労使共同の経営理念を追求することが重要になっています。

大企業の横暴やブラック企業の理不尽な話ばかりが目立ちます。

中小企業家同友会が労使見解の中で触れている「対等で、基本的人権を認め、労働者の自発性を生かす労使関係」を具体的に学ぶ事で、対立する労使関係ばかりではなく、共同が生み出す労働運動の未来を展望します。

## ●第6分科会 人権と平和・原発

#### 報告 1 自衛隊の変貌と県内の平和の課題

報告者 大西 幸一さん (岡山県平和委員会会長)

#### 報告 2 戦争法反対運動と『共同』の展望

報告者 氏平 長親さん (岡山県革新懇事務局長)

#### 報告 3 原発ゼロをめざす宗教者の取り組み

報告者 宮本 龍門さん (長泉寺住職)

安倍政権は、国民多数の世論を無視し、「戦争法」「原発再稼働」を強行しました。これに反対し多くの法律家、学者、文化人をはじめ、草の根からのシールズ、フヤの会、原発再稼働阻止の住民組織など広範な人々が「本当に止める、あきらめず戦う」と抗議の声あげ続けています。「アベ政治を許さない」の声は、「立憲主義、平和主義、民主主義(個人の尊厳、権利、自由)」を守る運動として、かつてない大きな流れになろうとしています。これら運動の経験から教訓をまなび、「新しい政治の流れ」の基本をつかみ、足元職場、地域、小さな仲間などからの運動を広げる糧にしましょう。